日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society
17
2021 年 10 月

総 会 報 告

令和 3 年度 日本チェンバロ協会 第 10 回通常総会 [書面議決]

第 10 回通常総会が 5 月 20 日締め切りの書面議決の形式で行われ、2020 年度の活動報告、2021 年度の予算案・事業計画等の各議案が審議され、それぞれ承認されました。
今後も岡田龍之介会長のもと、チェンバロとその音楽の普及と発展のため、運営委員を中心に新規事業を含むさまざまな活動を行ってまいります。
協会の活動充実のため、今後とも協会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

[2021 年度　運営委員]
会長：岡田 龍之介　　副会長：久保田 慶一
運営委員：石川 陽子・加久間 朋子・鴨川 華子・佐藤 理州・中田 聖子・林 則子・三島 郁
宮崎 賀乃子・山下 実季奈・山名 朋子・渡邊 温子

オンライン de チェンバロの日！2021

チェンバロ　オリンピア

～ 様々な国のチェンバロ音楽と楽器について ～

今年は本来であれば 5/15、16 両日に「チェンバロの日！2021 年」が行われる予定でしたが、コロナ禍収束の目処が立たないため対面での実施が中止となり、代わりに収録による動画配信という形で行われることになりました。昨年も同じ理由で同イベントが中止となりましたが、今年はこういう状況でも協会が活動を行っていることを協会員にアピールする(とともに、協会員以外の方にも、活動の一端を知っていただく)良い機会となるのでは？という意見が運営委員会で支持され、二つの演奏会と二つの講演会が収録されることになりました。
幸い、ヴィデオ撮影をお仕事になさっている協会員の圓谷俊貴さん(Promusica Continuo)に収録をお願いできることになり、大変高品質の動画を撮影して頂くことが出来ました。編集された完成版が後日どのように配信されるか今から楽しみですが、この場を借りて圓谷さんに厚く御礼申し上げたいと思います。

日本チェンバロ協会会長
岡田　龍之介

収録日：　2021 年 5 月 16 日, 17 日
収録ホール：松本記念音楽迎賓館
主催：　日本チェンバロ協会
協賛：　国際古楽コンクール<山梨>
後援：　公益財団法人 音楽鑑賞振興財団
協力：　久保田彰チェンバロ工房
収録：　圓谷俊貴（Promusica Continuo）

動画視聴と配信日程

協会員の皆様は、協会員用ページにて、10 月 1 日より今年度中、ご覧いただけます。

動画ページはこちら！

『 オンライン de チェンバロの日！2021 』

https://japanharpsichordsociety.jimdofree.com/event/cembalo-day2021/

一般の方々は、一週間のみ無料でご視聴いただけます。その後は有料でのアクセス視聴となります。（上記視聴ページへのアクセスキーをお求めいただきます。）　[一般の方への無料公開期間]　2021 年 10 月 8 日（金）～10 月 14 日（木）
ぜひ一般の方々にも御案内いただけますよう、よろしくお願いいたします。

※ 当動画の無断転載・無断使用はご遠慮ください。

講演　**【 故国をはなれて活躍した音楽家たち 】**　[51′38″]

渡邊 温子

故国を離れて活躍した音楽家を、異国の風土や文化との関わりとともにご紹介します。
画像と音源を視聴しながら、彼らの壮大な旅路を追っていきましょう。

渡邊　温子

国立音楽大学卒業後、ヴュルツブルク音楽大学に留学。チェンバロを有田千代子、グレン・ウィルソン諸氏に師事。2002 年より 3 年間ワシントン DC に滞在、ワシントン古楽祭の立ち上げに携わりアメリカ古楽界を牽引する演奏家と共演。現在は東京を中心に演奏活動を行い、声楽とのユニット《ドラマチック・バロック！》バロックアンサンブル《バロックランチの会》朗読とのユニット《風流楽》主宰＆音楽監督をつとめる。2021 年 3 月に CD『少女とぼろぼろの文庫本』をリリース。また音楽拠点研究の見地から、ある街や地域の音楽の発展を歴史や社会的背景とともに探ることをライフワークとし、2016 年に書籍『古楽でめぐるヨーロッパの古都』を上梓。演奏活動とともにメールマガジンや公開講座を通じてチェンバロと古楽の魅力をひろめる活動を積極的に展開。現在、日本チェンバロ協会運営委員、＜10 周年記念事業＞チェンバロ事典編集委員。武蔵野学院大学・大学院非常勤講師。タニタ楽器音楽教室チェンバロ科講師。無料メールマガジン「月刊バロック通信」配信中。ブログ「チェンバロ弾きのひとりごと」http://cembalonko.exblog.jp/　Twitter @AtsukoWatanabe
Facebook　AtsukoWatanabe

演奏　　**【 ～ 国を超え、時空を超え ～ 普遍と特殊 】**　　[20′24″]

有橋 淑和

チェンバロという姿の変わらぬ楽器に、それぞれの時代、
それぞれの国から、様々な名作曲家たちが想いを乗せ、そして私達にも託します。
こんな時だからこそ、彼らからのメッセージに耳を傾けてみませんか？
引き継がれるものの中に、個性を散りばめて。
何が普遍で何が特殊か。パズルをはめるように…
それが見つかりますように。

プログラム

Mieczysław Vainberg　ミェチスワフ・ヴァインベルク …… [ポーランド]　00′17″-
Vinni Pukh　ヴィンニ・プーフ（熊のプーさん）

Alexandre Tcherepnin　アレクサンドル・チェレプニン …… [ロシア]　00′53″-
Suite Op.100　組曲
・Introduction 序奏　・Sequences 連続　・Explorations 探究
・Interlude 間奏　・Conclusionb　終結

信時 潔 …… [日本]　10′00″-
東北民謡集　**「さんさ時雨」**

伊福部 昭
「サンタマリア」 …… [日本]　11′38″-
「小ロマンス」 …… [日本]　14′00″-

J-J.Perrey & G.Kingsley　J-J.ペリー & G.キングスレー …… [アメリカ合衆国]　17′01″-
Baroque Hoedown　**バロック・ホーダウン**

有橋　淑和

桐朋学園女子高校音楽科を経て、同大学卒業後、同大学研究科修了。ソロ、またアンサンブルで活動。クラシッククロスオーバーの分野でも活動を広げている。コンサートの他、テレビ・ラジオ出演や収録協力、ゲスト出演、雑誌コラム連載などの経験も持つ。デビューCD「Cembalo Revolution」（キングレコードインター―ショナル）は、好評を博しドイツレーベル、ハンスラークラシックより再リリースされた。ハイレゾ配信「Painting with Cembalo 」（e-onkyo music）は、総合アルバムランキング第１位、ウィークリーランキング第２位を獲得。近年では、後進の指導も行っている。

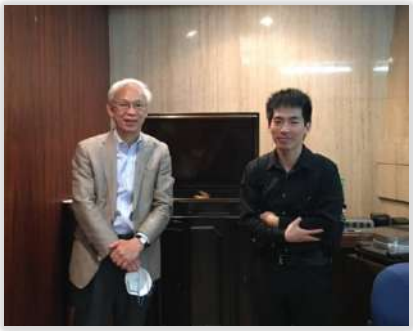
演奏　　**【 ヘンデルとスカルラッティ ～ 華麗なる競演 ～ 】**　　[51’41”]

西野　晟一朗

旗揚げ公演からほぼ毎年聴衆として参加していましたが、
今回は奏者として参加させて頂けること大変嬉しく思います。ヘンデルとスカルラッティのプログラム、
是非ともお楽しみ頂ければ幸いです。

プログラム

G.F.ヘンデル	組曲 第５番 HWV430 E-dur ……	00’14”-
D.スカルラッティ	ソナタ k.208 A-dur ……	14’51”-
	ソナタ k.175 a-moll ……	18’52”-
	ソナタ k.248 B-dur ……	23’05”-
	ソナタ k.69　f-moll ……	27’04”-
	ソナタ k.113 A-dur ……	32’03”-
G.F.ヘンデル	組曲 第１番 HWV426 A-dur ……	37’26”-



西野　晟一朗

旧福岡古楽音楽祭の影響で古楽に興味を持つ。桐朋学園大学古楽器科チェンバロ専攻を卒業。チェンバロ、通奏低音を有田千代子、上尾直毅、根本卓也の各氏に師事。ウルビノ古楽音楽祭に参加、チェンバロをリナルド・アレッサンドリーニ、室内楽をステファノ・デミケーレ、エンリコ・ガッティに師事。アルル音楽教室チェンバロ講師。コンセール・エクラタン福岡メンバー。2019、2020 年にはチェンバロ奏者として新・福岡古楽音楽祭に出演。現在、東京と福岡を中心に演奏活動を行なっている。

講演・演奏　　**【 ルッカース・チェンバロの世界 】**　　[1:42’18”]

渡邊　順生

聞き手：鴨川　華子

演奏プログラム

ピーター・フィリップス
　美わしのアマリッリ、ジュリオ・カッチーニによる

ジャイルズ・ファーナビー
　スパニョレッタ

スウェーリンク
　涙のパヴァーヌ ～ ジョン・ダウランドによる

フローベルガー
　トッカータ第 18 番 ヘ長調

フローベルガー
　組曲第 20 番 二長調
　　瞑想 ～ 私の将来の死を想って ～ / ジーグ / クーラント / サラバンド

ダングルベール
　プレリュード　二短調

ダングルベール
　シャンボニエール氏のトンボー

バッハ
　パルティータ第 2 番 ハ短調 BWV826
　　シンフォニア / アルマンド / クーラント / サラバンド / ロンドー / カプリッチョ

渡邊　順生

チェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノ奏者、指揮者として活躍。論文執筆や楽譜校訂も手がける。2010 年度サントリー音楽賞受賞。一橋大学社会学部卒業。アムステルダム音楽院にてソリスト・ディプロマ及びプリ・デクセランスを取得。小林道夫、グスタフ・レオンハルトらにチェンバロを師事。フランス・ブリュッヘン、アンナー・ビルスマ、ジョン・エルウィス、マックス・ファン・エグモント、バルトルド・クイケン等と共演。ソニー、創美企画、コジマ録音、セシル・レコードより多数のＣＤをリリース。著書『チェンバロ・フォルテピアノ』(東京書籍、第 3 刷 2009)、『バッハ・古楽・チェロ～アンナー・ビルスマは語る～』(アルテス・パブリッシング、2016)でも好評を博す。校訂楽譜としては、全音楽譜から、《幻想曲とソナタ K.475+457》(1995)及び《トルコ行進曲付きソナタ》(2016)［共にモーツァルトの自筆譜に基づく］を出版している。現在、桐朋学園大学講師。

オンライン de チェンバロの日！2021 報告

私は 2 つの講演会の収録に立ち会いましたのでその様子をご報告したいと思います。

まず 15 日は渡邊温子氏による【 故国をはなれて活躍した音楽家たち 】と題する講演。同氏によればこれは、オリンピック・イヤーに因んだ内容とのこと。収録前のライティングや、画像のチェックなど通常の講演とは別種の緊張感が現場に流れているのを私も感じましたが、午後の穏やかな日差しが差し込む窓外の庭をバックに、良い雰囲気のうちに収録がスタートしました。よく整理された原稿を元に、淀みのない話しぶりで講演会の収録は順調に進みました。講演の内容は、西ヨーロッパに生まれ、ある時点から異境の地で音楽活動を開始するに至った三人の音楽家にスポットを当て、彼らの活動の詳細を紹介し、その音楽的意義を考察するものでしたが大変興味深く、当時それらの地域が置かれていた歴史的状況や、ヨーロッパとの関係、更に彼らの活動がその地に与えた音楽的影響についても十分な説明がなされ、西欧とそれ以外の文化圏との知られざる文化交流に触れる、貴重な機会となりました。

翌 16 日は渡邊順生氏によるレクチャー・コンサート【 ルッカースのチェンバロ 】。今春刊行されたチェンバロ協会年報第 5 号でもルッカースの特集が組まれ、野村満男氏による「ルッカース・ファミリーの歴史と楽器」、チェンバロ奏者 4 人による座談会「コルマールのルッカースをめぐって」の 2 つの記事が登場するなど、ルッカースの楽器について理解を深める大変タイムリーな講演内容となりました。

まずルッカース一族の活動の淵源が紹介され、その後時代順に夫々のメーカーがどのような楽器を製作し、そこにどのような特徴が見られるかが詳述されました。楽器の構造や外観、音色など細かく言及があり、とりわけトランスポージング・ダブルに関する解説は秀逸でした。その合間には講演の中で紹介された夫々の楽器に相応しい作品が演奏されましたが、その際故柴田雄康氏が初めに一段鍵盤の楽器として製作し、後に音域を拡張しもう一段レジスターを追加して二段鍵盤にラヴァルマンしたルッカース・モデルが使用され、講演の趣旨に適った楽器のチョイスとなりました。オリジナルの形状を保つルッカースのチェンバロが極めて少ないのはよく知られていますが、ラヴァルマンを施される以前のルッカースの音が、それ以後の音とは根本的に異なる響きを有する、と言う氏の指摘は私にはとりわけ印象的で、オリジナルの状態をベストと考えるか否かは別として、ルッカースの音を問題にする際の重要なポイントではないか？と感じた次第です。単なる楽器紹介にとどまらず、随所に問題提起を含む優れた講演内容及び演奏となり、上記渡邊温子氏の講演ともども「チェンバロの日！」に相応しい充実した企画となりました。

（岡田 龍之介）

美しいステンドグラスから射し込む柔らかな光に包まれながら、松本記念音楽迎賓館 A ホールにて 2 日間に渡って収録が行われた 2 つの演奏会プログラム。Promusica Continuo さんご協力のもと、高性能の機材による撮影に心躍らせながら、和気藹々とした雰囲気で収録が進みました。

1 日目のプログラムは有橋淑和氏による【 ～ 国を超え、時空を超え ～ 普遍と特殊 】。他ではなかなか拝聴することのできない近現代のチェンバロ作品が並んだプログラムは、メランコリックな曲調の「ヴィンニ・プーフ(熊のプーさん)」で幕を開け、様々な奏法を駆使して演奏されるチェレプニンの組曲、バフストップのしっとりとした響きが心地よい「さんさ時雨」、伊福部昭によってチェンバロ用に書き下ろされた 2 作品と続き、ディズニーのエレクトリカルパレードでお馴染みの「バロック・ホーダウン」で賑やかなクライマックスを迎えます。プログラムタイトルの通り、国や時代を超えた旅へと誘われるような気分で収録に立ち会わせていただきました。

2 日目は西野晟一朗氏によるヘンデルとスカルラッティのプログラム。ヘンデルの組曲の中からは「調子の良い鍛冶屋」でお馴染みのホ長調と、フランス様式に傾倒したイ長調の 2 つが、そしてスカルラッティのカンタービレの旋律が美しい作品と、大胆な転調や意表をつく不協和音を用いたアクロバティックな語法による作品を織り交ぜた 5 つのソナタが演奏されました。後期バロック時代を代表する 2 人の作曲家が残した作品の華やかで瑞々しい響きが会場に満ちる収録となりました。

お 2 人の素敵な演奏を高品質の動画でお楽しみいただけるこの機会をどうぞお見逃しなく！ （佐藤理州）

使用楽器

● チェンバロ（後期フレンチ）
製作：クラヴサン工房アダチ
音域：FF～f3　61 鍵（5 オクターヴ）
配列：下(主)鍵盤 8 フィート 2 列の弦　/　上鍵盤 4 フィート 1 列の弦　/　バフストップ装備　/　ペダルなし
ピッチ：a1＝398Hz～440Hz（ピッチ可変トランスポージング機構付）
寸法：奥行 2m 35cm　幅 95cm　厚さ 30cm（脚部含まず）

● チェンバロ（フレミッシュ）
２段鍵盤ラヴァルマン・タイプ
製作：柴田雄康 1972 年
音域：GG~e'''

特 別 販 売

昨年ご好評いただいたトートバッグに続き、今年はレターセットを販売させていただいております。通常開催の「チェンバロの日！」であれば当日しかご購入いただけないところ、オンライン化に伴い、当協会ホームページの協会員ページにて、協会員の皆様だけに限定販売をしております。この度１ヶ月延長し、10 月末までといたします。素敵なレターセット、皆様ぜひお申し込みください。詳しくは以下のページをご覧ください。

→ 特別販売ページ　https://japanharpsichordsociety.jimdofree.com/event/cembalo-day2021-letter-set/

～ レターセット ～

＊ 内容　　便箋 12 枚、封筒（宛名シール付き） 3 枚

＊ 色　　どちらかを選び、申し込み時に明記してください。

★ No.1 [ワインレッド]　★ No.2 [ボトルグリーン]

＊ 販売期間　　2021 年 7 月～9 月の 3 ヶ月間限定→ 10 月末日まで！

＊ 販売価格　　700 円（税込） ＋ 送料

（そのうち 300 円を協会賛助金として、協会の運営にご協力いただくことになります）

[**お申し込み方法**]

① ご希望の色、② 数量、③ お名前、④ ご住所を明記の上、

japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

上記の当協会アドレスまでメール、もしくは、該当ページ下部のフォームよりお申し込みください。
ご予約の受付とともに振込先を返送申し上げます。お振込を確認させていただき、後日商品を発送させていただきます。

[**お申し込み期間**]　7 月～9 月の 3 ヶ月間 プラス　1 ヶ月 → 10 月まで

＊ お申し込み締切り日 ・・・令和 3 年 10 月末日

＊ 数量に限りがございますので、なくなり次第受付を終了いたします。是非お早めにお申し込みください。

☆ 協会員の方で、本年度の更新手続きがお済みでない方は、お申し込みいただくことができません。本年度の会費納入手続きをもって更新手続きが完了いたします。会費納入がまだの方で、購入ご希望の場合は、更新手続き(会費納入)を先に済ませていただきますよう、よろしくお願いいたします。

♪ メタリックカラーボールペン（市販）でも素敵に。裏の鍵盤は、チェンバロの装飾のような落ち着いた色の金箔です。
♪ 便箋の色味はなかなか写真でお伝えするのが難しいのですが、実は使用している紙にこだわりがあります。楽譜の印刷物によく使われる、少し柔らかめのクリーム色の紙。その紙を使った便箋なのです。もちろん、書き心地も最高です。
♪ 深いグリーンの色味はなかなか写真でお伝えするのが難しいですが、宛名シールを貼ってあるものが実際のお色に近いと思います。

（デザイン・制作　高橋ナツコ）

年報販売のご案内

『日本チェンバロ協会年報』は、当協会が毎年発行する機関誌です。毎号チェンバロを中心としたヒストリカルな鍵盤楽器に関連する歴史、理論、奏法、そして思想的背景などに関する多彩な内容を掲載しています。

毎号独自に編集される特集では、当協会毎年恒例の催し「チェンバロの日！」で行われる座談会やレクチャーの内容、それらに関係する論文をまとめてご紹介します。また研究論文・研究ノート、書籍紹介・楽譜紹介、楽器製作家へのインタビュー「アトリエを訪ねて」、海外で活躍・活動されている奏者や留学生による海外レポート、そして会員の録音物紹介など、チェンバリストを含めた鍵盤楽器奏者、さらにはその他の音楽家や愛好家の方にとても興味深い記事が満載です。

日本チェンバロ協会年報は、版元の（株）アルテスパブリッシングのサイトよりどなたでもお求めいただけます。→ https://artespublishing.com/product-category/books/classic/日本チェンバロ協会-年報/

＊当協会ホームページ内、「ご紹介ページ」ができています！→ https://japanharpsichordsociety.jimdofree.com/journal/nenpou/

日本チェンバロ協会 年報 2021 第５号

発行日：2021 年 5 月 10 日
発行： 日本チェンバロ協会
発売： （株）アルテスパブリッシング ISBN978-4-86559-236-8 C1073
価格： ¥2,800（税別）

第５号の見どころは、二つの特集「古代ギリシャ・ローマと音楽」と「ルッカースのチェンバロ」です。西洋音楽においてキリスト教と並んで重要な音楽素材は、古代ギリシャ・ローマの神話ですが、諸川春樹氏への小穴晶子氏のインタビューでは、F. クープランや J.-Ph. ラモーなどの曲名にちなんだ古代ギリシャ・ローマ神話の素材が絵画とともにわかりやすく紐解かれます。また大愛崇晴氏による論考では、17～18 世紀のペーリやタルティーニらがそれぞれの時代で古代ギリシャ・ローマの音楽をどのように捉えたか、彼らの音楽論から読み解いています。

また「ルッカースのチェンバロ」特集においては、野村満男氏による「ルッカース・ファミリーの歴史と楽器」についての論考（次号に続く）とオンライン座談会「コルマールのルッカースをめぐって」が並びます。この座談会ではフランス、コルマール市の博物館が所蔵するヨハネス・ルッカース製作の楽器を使って演奏録音を行った奏者の面々が、この楽器とのコミュニケーションや、演奏によって立ち現れるこの楽器の興味深い特質や個性について話し合います。研究ノートでは安川智子氏が、フランスの古楽復興初期の第一人者であったサン＝サーンスが 1915 年に行った講演「音楽、とりわけ古楽の演奏実践について」の翻訳と、その内容から彼が考える「古楽」や「古典」を分析・考察しています。

＜ 目次 ＞

第５号の刊行によせて（副会長・年報編集委員長　久保田慶一）
特集１　古代ギリシャ・ローマと音楽
・インタビュー「ギリシャ・ローマ神話――美術と音楽を巡って」（諸川春樹／聞き手：小穴晶子）
・研究論文　理想としての古代ギリシャ・ローマの音楽――ペーリ、タルティーニ、カルリの古代音楽観（大愛崇晴）
特集２　ルッカースのチェンバロ
・研究論文　ルッカース・ファミリーの歴史と楽器（その１）（野村満男）
・オンライン座談会「コルマールのルッカースをめぐって――CD 録音から探るルッカース・チェンバロの魅力」（出席者：家喜美子・大塚直哉・桒形亜樹子・渡邊順生／司会：岡田龍之介）
研究ノート
・カミーユ・サン＝サーンスにとっての「古楽」と「古典」――ピリオド奏法研究の先駆者として（その１）（安川智子）
海外レポート　スイスの工房から（牧田啓祐）
書評・書籍紹介
・筒井はる香著『フォルテピアノ――19 世紀ウィーンの製作家と音楽家たち』（アルテスパブリッシング、2020）（平井千絵）
・今谷和徳・中村好男・服部雅好編著／武田牧子・関根敏子著『オルケゾグラフィ――全訳と理解のための手引き』（道和書院、2020）（平山絢子）
・マルクス・シュヴェンクライス編『即興演奏総説――17–18 世紀歴史的資料にもとづくファンタジーレン』（スコラ・カントールム・バジリエンシス叢書 5、シュヴァーベ出版社、2018）（浅井寛子）
楽譜紹介

・ウィリアム・バード　オルガン・鍵盤曲集――ファンタジアとその関連作品（ベーレンライター社）（郡司和也）
アトリエを訪ねて⑤　野神俊哉（寺村朋子、坂由理）
会員録音物紹介
・小川麻子『J.S.バッハ／6 つのパルティータ』
・郡司和也『パリの悦び――オルレアン公フィリップのフランスバロック音楽』
・崎川晶子『クープラン家／幸福な思い』
・寺村朋子『フォリア／マラン・マレのヴィオル曲集第 1 巻～第 5 巻より』
・渡邊順生『アンナー・ビルスマ in 東京』
・渡邊順生『J.S.バッハ：チェンバロ協奏曲全集［Vol. 1－2］』
日本チェンバロ協会活動記録（2020 年度）
日本チェンバロ協会会則
日本チェンバロ協会「年報」規定
日本チェンバロ協会「年報」投稿規定
日本チェンバロ協会　2020 年度年報編集委員・役員・運営委員
編集後記

日本チェンバロ協会 年報 2020 第４号

発行日：2020 年 5 月 31 日
発行：　日本チェンバロ協会
発売：　（株）アルテスパブリッシング ISBN978-4-86559-223-8 C1073
価格：　¥2,800（税別）

第４号の特集は「音律」です。【チェンバロの日！2019】の座談会「鍵盤楽器の発展と調律」では鍵盤楽器の調律をめぐり興味深いトピックが次々に飛び出します。その内容は多岐にわたり、来日演奏家も含め日本での古典調律実践の歴史、音律や調律の語源でもある「テンペラトゥーラ temperatura」と関係付けた「wohltemperiert」の思想的背景、そしてそれと当然関連する J. S. バッハの意図した調律などが主なものです。

音律に関する論考では、中川岳氏による、17-18 世紀のフランスの数学者・物理学者 J. ソーヴールが行った音律に関する講義内容から、43 分割音律の理論や、分割鍵盤のないフランスの楽器における 1/5 ミーントーンの適用方法について、そして大岩みどり氏の、G. フレスコバルディの「平均律」による新オルガン建造についての論考が並びます。その他、平林朝子氏による「イギリス・ヴァージナル装飾法」では当時の装飾記号についての新たな解釈がなされます。楽譜紹介では、興味深いレパートリーを持つ「18 世紀のローマ・ナポリ楽派による作品集―チェンバロのための 17 の珍しい作品集」を扱っています。

＜ 目次 ＞

第４号の刊行によせて（副会長・年報編集委員長：岡田龍之介）
特集　音律をめぐって
・座談会　鍵盤楽器の発展と調律（登壇者：桒形亜樹子・藤原一弘・横田誠三／司会：大塚直哉）
研究論文
・イギリス・ヴァージナル音楽における装飾法の新解釈（平林朝子）
・ソーヴールの 43 分割音律とその適用（中川岳）
・作品と音律の関係についての一考察――フレスコバルディはなぜバルベリーニ枢機卿に平均律を推奨したのか（大岩みどり）
書評・書籍紹介
・J.-Ph.ラモー著／伊藤友計訳『自然の諸原理に還元された和声論』（音楽之友社、2018）（安川智子）
・R.カークパトリック著／原田宏司監訳／門野良典訳『ドメニコ・スカルラッティ』（音楽之友社、2018）（平野智美）
・西田紘子ほか著『ハーモニー探究の歴史』（音楽之友社、2019）（川井博之）
楽譜紹介
・18 世紀のローマ・ナポリ楽派による作品集――チェンバロのための 17 の珍しい作品集（渡邊孝）
アトリエを訪ねて④　伊藤福一
海外レポート
・ニューヨーク便り（法月里野）
・アルゼンチン記（吉見伊代）
会員録音物紹介
・渡邊孝ほか『ポルタ・マーニャ／チェロ・ソナタ集』
・荒木紅ほか『ヨーゼフ・エルスネル／室内楽全集』
・山名朋子・山名敏之『シューベルト／フォルテピアノによる４手連弾作品全集 第１巻　エキゾティシズムと対位法』
・桒形亜樹子『ルイ・クープラン／クラヴサン曲集』
・鈴木理賀『J.S.バッハ／パルティータ［全曲］』
日本チェンバロ協会活動報告（2019 年度）
日本チェンバロ協会会則

日本チェンバロ協会「年報」規定
日本チェンバロ協会「年報」投稿規定
日本チェンバロ協会　2019 年度年報編集委員
日本チェンバロ協会　2019 年度役員・運営委員
編集後記

日本チェンバロ協会 年報 2019 第３号

発行日：2019 年 5 月 31 日
発行：　日本チェンバロ協会
発売：　（株）アルテスパブリッシング ISBN978-4-86559-198-9 C1073
価格：　¥2,800（税別）

この号では、チェンバロ・レパートリーの最も重要な作曲家の一人、フランソワ・クープランの特集を組んでいます。【チェンバロの日！2018】の講演、関根敏子氏による「彼の時代と音楽」では、クープランが生きた当時のパリについて古地図から読み取ります。また小穴晶子氏はクープランの標題付き描写音楽の背景を、アリストテレスのミメーシス論、画家シャルル・ル・ブランの情念表現論、ラ・ブリュイエールのカラクテール論などの美学思想史のさまざまな角度から探っていきます。

宮谷尚美氏の論考では、ゲーテの『若きヴェルターの悩み』における「クラヴィーア」に焦点を当て、文学的にその役割を解き明かし、またこのクラヴィーア自体がいかなる「鍵盤楽器」であったかを推論しています。また上田泰史氏は、18 世紀からは大きく変化した 19 世紀の鍵盤楽器奏者の演奏における身体のあり方について、19 世紀前半のフランスのピアノの教本から論じています。書籍紹介としてフランソワ・クープラン『クラヴサン奏法』の楽形亜樹子氏による新訳版、グイド・ダレッツォ『ミクロログス』の中世ルネサンス音楽史研究会訳、村上則子著『ラモー　芸術家にして哲学者』を掲載しています。

＜ 目次 ＞

刊行によせて（会長　久保田慶一）
第 3 号の刊行によせて（副会長・年報委員長　楽形亜樹子）
特集　フランソワ・クープラン ――彼の時代と音楽
　・講演　クープラン時代のパリの地図から見る音楽事情（関根敏子）
　・標題付き描写音楽の思想的背景を探る――美学思想史の観点から（小穴晶子）
研究レポート
　・J.P.ミルヒマイアー『正しいピアノフォルテ奏法』（1797 年）――第 3－6 章（訳：小沢優子、久保田慶一）
研究論文
　・ゲーテ『若きヴェルターの悩み』における「クラヴィーア」（宮谷尚実）
　・フランスにおけるピアノの演奏表現と身体の理想――18 世紀末から 19 世紀前半のピアノ教本を中心に（上田泰史）
書評
　・フランソワ・クープラン著／楽形亜樹子訳『クラヴサン奏法［対訳版］』（全音楽譜出版社、2018）（梶山希代）
　・グイド・ダレッツォ著／中世ルネサンス音楽史研究会訳『ミクロログス（音楽小論）』（春秋社、2018）（大愛崇晴）
　・村山則子著『ラモー　芸術家にして哲学者』（作品社、2018）（上薗未佳）
楽譜紹介
　・ゴットリープ・ムッファト『６つの組曲』（ブライトコプフ・ウント・ヘルテル社）（伊藤一人）
　・ジローラモ・フレスコバルディの手稿譜鍵盤作品集――「フレスコバルディ以前のフレスコバルディ」と「フレスコバルディ以後のフレスコバルディ」（大岩みどり）
アトリエを訪ねて③　木村雅雄
博物館を訪ねて 第 2 回　国立音楽大学楽器学資料館（武田有里）
海外レポート
　・DUMISTE（デュミスト）という肩書きを持った音楽家（柳澤藍）
　・古楽×モダン――ベルリンから見た現在と未来（荒木紅）
　・アメリカ滞在記（平林朝子）
会員録音物紹介
　・松岡友子ほか『ジャコモ・ファッコ／マスター・オブ・キングス』
　・植山けい『バッハ／6 つのパルティータ』
　・楽形亜樹子『バッハ／平均律クラヴィーア曲集第 1 巻』
　・加久間朋子ほか『音楽三昧／ゴルトベルク変奏曲』
　・加久間朋子ほか『ヴァイオリンとハープシコードの情景』
　・中村恵美ほか『ウィリアム・バード&ジャパン』
　・鴨川華子ほか『イグナツィオ・ジーバー／6 曲のリコーダーと通奏低音のためのソナタ』
　・平野智美ほか／三澤寿喜指揮キャノンズ・コンサート室内合唱団&管弦楽団『ヘンデル／メサイア 1741 年初稿版』
　・辰巳美納子『ジロラモ・フレスコバルディ／鍵盤作品集』
日本チェンバロ協会活動記録（2018 年度）

日本チェンバロ協会会則
日本チェンバロ協会「年報」規定
日本チェンバロ協会「年報」投稿規定
日本チェンバロ協会　2018 年度年報編集委員
日本チェンバロ協会　2018 年度役員・運営委員
編集後記

日本チェンバロ協会 年報 2018 第２号

発行日：2018 年 5 月 31 日
発行：　日本チェンバロ協会
発売：　（株）アルテスパブリッシング ISBN978-4-86559-186-6 C1073
価格：　¥2,800（税別）

今号の特集は「チェンバロ復興と今」です。前年度の【チェンバロの日！2017】の座談会では「チェンバロ演奏による現代音楽」について活発な議論が行われました。チェンバロといえばバロックや初期古典派のレパートリーが想定されますが、古楽復興運動初期やその後にも工夫が重ねられて製作された「モダン・チェンバロ」の存在や、20 世紀初頭から現在に至るまで作曲されている新しいレパートリーについてなどがその主な内容です。座談会では作曲家の増本伎共子氏ご本人が鍋島元子氏によって依頼されたチェンバロ作品などについても詳しく語っています。

中津川侑紗氏による論考では、W. ランドフスカの『古楽』の概要とその改訂の動機から、ランドフスカの「古楽」演奏についての考え方が明らかにされます。書評では久保田慶一氏訳による L. モーツァルトの『ヴァイオリン奏法』と荒川恒子氏訳による J. J. クヴァンツの『フルート奏法』新訳版について、楽譜紹介では『J. カバニリエス作品全集』や G. レオンハルトによる J. S. バッハの器楽作品のチェンバロ編曲版について紹介しています。さらに J. ミルヒマイアーの『正しいピアノフォルテ奏法』（1797 年）第１～３章が小沢優子氏と久保田慶一氏による翻訳によって紹介されます。この翻訳は次号にも続きます。

＜ 目次 ＞

刊行によせて（会長　久保田慶一）
特集　チェンバロ復興と今
　・座談会　チェンバロ復興と今 ――楽器と音楽から――（登壇者：増本伎共子、本間みち代、染田真実子／司会：大塚直哉）
　・ワンダ・ランドフスカ『古楽』とその改訂の試み（中津川侑紗）
研究レポート
　・J.P.ミルヒマイアー『正しいピアノフォルテ奏法』（1797 年）――第 1、2 章（訳：小沢優子、久保田慶一）
　・『記譜法の歴史』徹底解説講座を実施して（福島康晴）
書評
　・レオポルト・モーツァルト著／久保田慶一訳『ヴァイオリン奏法［新訳版］』（全音楽譜出版社、2017）（小沢優子）
　・ヨハン・ヨアヒム・クヴァンツ著／荒川恒子訳『フルート奏法［改訂版］』（全音楽譜出版社、2017）（小沢優子）
楽譜紹介
　・J.カバニリエス作品全集より第 1 巻、第 2 巻（森洋子）
　・J.S.バッハ＝レオンハルト 組曲、パルティータ、ソナタ ――チェンバロ編曲集（三島郁）
アトリエを訪ねて②　春山直英
博物館を訪ねて 第 1 回　ベルリン楽器博物館訪問記（宮谷尚実）
海外レポート
　・北フランス・アブヴィルのクラヴサン・クラス（會田賢寿）
　・南仏トゥーロンでの通奏低音レッスン（郡司和也）
　・スペイン・バルセロナ　カタルーニャ高等音楽院古楽科伴奏者として（松岡友子）
　・わたしのイタリア紀行？（渡邊孝）
会員録音物紹介
　・鈴木美登里ほか『音楽の諧謔』（Arte dell’arco Japan）
　・小池香織ほか『バッハ×ヴィオラ・ダ・ガンバ』（ALM Records）
　・平野智美『《1685》　後期バロックの 3 巨匠 スカルラッティ、ヘンデル、バッハ』（ALM Records）
　・渡邊順生『ピアノとチェンバロの狭間で ――タンゲンテンフリューゲルで弾く 18 世紀の鍵盤音楽』（ALM Records）
　・桒形亜樹子『メディテーション ――フローベルガーの眼差し』（Dream Window―Tree）
　・野澤知子ほか『悪魔のフォルクレ』（Livenotes）
日本チェンバロ協会活動記録（2017 年）
日本チェンバロ協会会則
日本チェンバロ協会「年報」規定
日本チェンバロ協会「年報」投稿規定
日本チェンバロ協会　2017 年度年報編集委員
日本チェンバロ協会　2017 年度役員・運営委員
編集後記

日本チェンバロ協会 年報 2017 創刊号

発行日：2017 年 5 月 20 日
発行： 日本チェンバロ協会
発売： （株）アルテスパブリッシング ISBN978-4-86559-165-1 C1073
価格： ¥2,800（税別）

日本チェンバロ協会が 2011 年に発足してから 6 年、満を持しての発行となった創刊号です。本号の巻頭記事は、当協会の最初期に会長職を務めた小林道夫氏へのインタビューです。日本におけるチェンバロ奏者パイオニアの一人である氏が、チェンバロに出逢った経緯、影響を受けた音楽家について、そして若い奏者への助言を語っています。

特集では本号出版年である 2017 年の J. J. フローベルガー生誕 400 年を記念して、フローベルガーと彼がローマで就いた G. フレスコバルディに関する論文 3 本が並びます。久保田慶一氏はベルリンで発見された彼自身の手稿譜［SA4450］も含め、没後もさまざまな版が出版されているフローベルガーの楽譜を種別に整理しています。また菜形亜樹子氏はフローベルガーがその［SA4450］中の「説明付きのアルマンド」に付された説明を元に、曲にみられる修辞的要素の解釈を示しています。さらに大岩みどり氏は当時交わされた手紙などの資料を元に、フレスコバルディの作品の献呈のあり方を論じています。また楽譜紹介では、山名敏之氏による W. A. モーツァルト、そして副島恭子氏による F. クープランのそれぞれの新刊について、当時や現代の出版譜との比較も交えた研究的論考としても読むことができます。

＜ 目次 ＞

日本チェンバロ協会「年報」の刊行によせて（会長　久保田慶一）
特集Ⅰ　小林道夫先生インタビュー「音楽の演奏は魂の仕事」
特集Ⅱ　フローベルガー生誕 400 年
・歴史と現代におけるフローベルガー――ベルリンに残された楽譜を中心として（久保田慶一）
・フローベルガーの鍵盤楽曲の演奏解釈――修辞学的視点から（菜形亜樹子）
・ジローラモ・フレスコバルディは献呈相手をどう選んだか――《トッカータ集》（第 1 巻 1615；第 2 巻 1627）を中心に（大岩みどり）
書評
・アンナー・ビルスマ、渡邊順生著『バッハ・古楽・チェロ――アンナー・ビルスマは語る』（崎川晶子）
・渡邊温子著『古楽でめぐるヨーロッパの古都』（岡田龍之介）
楽譜紹介
・W. A.モーツァルト：クラヴィーア・ソナタ K.331 の自筆譜一部発見（2014 年）後の新しい 2 つの原典版（ヘンレ社、全音楽譜出版社）（山名敏之）
・フランソワ・クープラン：クラヴサン曲集　第 1 巻 （ベーレンライター社）（副嶋恭子）
アトリエを訪ねて①　故・柴田雄康（1947–2013）
海外レポート
・「オール・オブ・バッハ」のインヴェンション・プロジェクトに参加して（大藤莞爾）
・「フランス・バロック・オペラ」プロジェクトに参加して（濱田あや）
・リヨン国立高等音楽院　チェンバロ・通奏低音科で学んで（曾根田駿）
・チェンバロ探求の旅（植山けい）
日本チェンバロ協会活動記録（2012–2016 年度）
日本チェンバロ協会規約
日本チェンバロ協会「年報」投稿規定
日本チェンバロ協会　2016 年度年報編集委員
日本チェンバロ協会　2016 年度役員・運営委員
編集後記

日本チェンバロ協会年報は、版元の（株）アルテスパブリッシングのサイトより、どなたでもお求めいただけます。価格は各号 1 冊 2,800 円(税別)です(送料などについては、販売サイトをご覧ください)。

協会員の皆様には今後、オンライン行事等に合わせて、協会からの販売期間を設けることになりました。協会員専用ページにて随時ご案内いたします。

会員の方には次年発行の年報を無料でお届けしています* が、サポーター会員の皆様には年報特典がございませんので、（株）アルテスパブリッシング (通年対応)あるいは、協会での販売期間にお求めの上ご覧ください。

*例えば、2021 年度の第 5 号は、20 年度の会員資格をお持ちであった方に会員特典として無料でお送りしています。

＊当協会ホームページ内「年報ご紹介ページ」は、こちら！ → https://japanharpsichordsociety.jimdofree.com/journal/nenpou/

事務局からのお知らせ

事務局 ：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

＜ 更新手続き ＞　2021 年度の更新手続きがお済みでない方（年会費未納の方）へのお知らせです。

＊ お申し出がない限り、毎年自動継続となります。なるべく４～７月中の更新手続き（会費納入）をお願いいたします。
＊ 年会費の入金確認ができ次第、新しい会員証を送付いたします。
＊ 協会ホームページ内「協会員専用ページ」の閲覧に必要なパスワードは毎年更新しており、その年度の年会費をお振込みくださった方に個別にお知らせしています。
＊ 前年度分も未納の方は、あわせてお振込みください。
＊ 年会費のお支払い状況がご不明な方は、お振り込み前に事務局までメールでお問い合わせください。

事務局　　japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

【年会費】　会員：6,000 円（学生：3,000 円）　サポーター：3,000 円　法人･団体会員：10,000 円

＜ 退会手続き ＞

＊ 退会希望の旨を必ず事務局までご一報ください。
＊ 年会費の未納は退会手続にはなりませんので、ご注意ください。年会費が未納でも、お申し出のない限り自動継続となります。（ただし、2 年間の未納が続くと 3 年目に自動退会。その場合も未納分の支払い義務は消えません。）

＜ 諸変更について ＞

＊ 連絡先の変更、会員区分の変更がある場合には事務局までご連絡下さい。

＜ 賛助金の募集 ＞

＊ より良い協会活動の実現のため、随時、賛助金を受け付けております。
下記口座へお振込みの際は、その旨事務局までご一報をお願いいたします。

【賛助金】　会員･学生会員･サポーター：一口 3,000 円～　法人･団体会員：一口 10,000 円～

＜ 年会費･賛助金お振込み先 ＞

ゆうちょ銀行
名義：日本チェンバロ協会
記号：１００９０　番号：０７２４６６１１

※ ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込みされる場合

店名：〇〇八（ゼロゼロハチ）　店番：００８
預金種目：普通預金　　口座番号：０７２４６６１

＊ 振込用紙の送付は行っておりません。
＊ 手数料はご負担願います。
＊ 年会費のお支払い状況に関するお問い合わせは、事務局までお願いいたします。

＜ その他 ＞

＊ 最新のメールマガジン（第 120 号）を受信できていらっしゃらない方は、ご連絡ください。
＊ 協会の運営に携わってくださる方を募集しております！詳細は、事務局へお気軽にお問い合わせください。

会報第 17 号 2021 年 10 月 1 日発行　発行人：岡田龍之介
編集：石川陽子、中田聖子、山下実季奈

日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society

日本チェンバロ協会事務局
住所：〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1 丁目 44-4　1 階
メール：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com
ホームページ：https://japanharpsichordsociety.jimdo.com